

2020年3月期 決算説明会
主な質疑応答

Q: 新型コロナウイルスの感染拡大について、各事業に対する足元の影響を教えてください。

A: イメージングソリューションについては、世界各国の主要都市におけるロックダウン影響により、量販店での販売が厳しい状況にあったが、徐々に外出自粛やロックダウンの緩和が進んでおり、一部のエリア、店舗において販売が再開している。また、コロナ禍で伸長するネット販売での売上を伸ばしていく。ヘルスケア領域では、メディカルシステム事業において回診用 X 線撮影装置や超音波診断装置に特需がある一方、内視鏡は検査そのものが減少傾向にあるなどのマイナス影響がある。マテリアルズ領域では、特にグラフィックシステム事業が宣伝、チラシ広告の減少による、刷版材料の販売減影響を受けている。一方でディスプレイ材料事業では在宅勤務・在宅教育の普及による大型モニター、タブレット需要増により販売好調。ドキュメントソリューションは、営業活動の自粛や、在宅勤務の普及によるオフィスの MFP 稼働率減少影響を受けている。コロナウイルス感染拡大終息後も、在宅勤務の普及によるマイナス影響は一部で残ると見ているが、OEM 供給の拡大や、働き方変革を支援するソリューション・サービスへのシフトを加速することで、事業成長を実現する。

Q: チェキの4Q販売実績と、コロナ禍でのプロモーション戦略の変化について教えてください。

A: 4Qの販売台数実績は130万台、12ヶ月累計で850万台。最大市場である米国での販売について、クリスマス商戦のセルスルーが好調に推移し、1月以降のセルインも順調に推移していたが、コロナウイルス感染拡大影響により、3月以降の販売が急減した。チェキの新たな楽しみ方を通して、自宅で過ごす時間をより楽しく、充実させるプロモーションの展開を進めている。

Q: 次期中期経営計画の発表時期と、株主還元方針について教えてください。

A: 中期経営計画の発表時期は現時点で未定。コロナウイルス感染拡大の終息と、経済活動の回復が見通せる状態になってからになるだろう。株主還元方針についても中期経営計画と合わせてご説明するが、方向性としては、配当性向25%以上を確保しつつ、自社株買いについてはキャッシュポジションを見ながら、機動的に実施することを考えている。

以上